

土浦市との 公共施設相互利用協定で 両市民の利便性向上を！

神立駅西口再開発中の今がチャンス！

公共施設相互利用協定

公共施設相互利用協定とは、隣接自治体間で協定を結ぶことにより、両住民が分け隔てなく、同じ条件で両方の公共施設を使用できるようにすることです。一つの自治体で体育施設から図書館、公民館や市民会館など、あらゆる公共施設を自前で用意するのが理想ですが、その建設費や運営費を考えれば限界があります。そこでお隣

9月23日に終了したかすみがうら市議会平成28年第3回定例会で、私は「土浦市との公共施設相互利用協定を模索すべき」と提言しました。神立駅前の再開発と駅舎の建て替えが進められている今こそ、市民の利便性向上を図るチャンスです。将来の合併を見据え、かすみがうら市は積極的に働きかけるべきです。

つばさ通信

第7号

かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

の自治体と協定を結んで、お互いを補完しあい、住民が利用できる施設の数を増やそうという施策です。

こうした動きは全国で行われており、茨城県内でも「石岡市・行方市・小美玉市・茨城町」において、また「牛久市・龍ヶ崎市・利根町」でも相互利用協定が結ばれています。

将来の合併を見据えて

皆さんご存知の通り現在、土浦市と共同で神立駅西口の再開発計画が進行しており、駅舎も平成31年3月には橋上化された新しい姿に生まれ変わります。千代田シヨッピンゲモールへ続く道路も整備され、神立駅西口エリアは、大きく変貌を遂げることになります。こうした街のリニューアルに市民の期待も高まりますが、ただ新しくなるだけでは十分とは言えません。せっかく駅前大改造を行うの

であれば、市民の利便性を向上させ、新しい住民をも呼び込む魅力を生み出さなければなりません。そのための提案が、公共施設相互利用協定なのです。

すでにある両市のスポーツ施設、図書館、コミュニティ施設を互いに低料金で利用できるようにすることはもちろん、新しい駅舎や駅前に、公共施設の窓口を設置することも有効です。例えば駅に市役所の出張所や図書館の貸し出し窓口があれば、駅利用者の利便性は飛躍的に高まります。保育所への送迎拠点があれば、働くお母さんたちを強く応援することにもなるでしょう。将来の人口減少が懸念される今、かすみがうら市単独で他市町村に負けない市民サービスを維持することは困難です。土浦市との合併も見据え、市民本位の広域連携を具体的に進めていく時です。

冷たい！寒い！
悲鳴をあげる子供たち
霞ヶ浦南小プール低水温問題

霞ヶ浦地区の小・中学校統合にともな

て、本年度から学校のプール授業は新しく建設された霞ヶ浦南小学校のプールで行われています。しかし、初めてのシーズンを終えた今、多くの子どもたちから「水が冷たい」「寒すぎる」との声が上がっています。

この新しいプールは屋根と壁でおおわれているのですが温水ではありません。つまり、日光が十分に入らずに、水温が上がらないという欠点があるのです。

学校教育課の説明では「基準の温度はクリアしている」とのことですが、唇が青くなる子どもも多く、1回の授業で5人もの中途離脱者がでることもあるとのこと



「このままでは子どもの健康が心配」と、多くの保護者も懸念を表明しています。

温水装置を増設する、あるいは屋根を透過性のものに替えて日差しを確保するなど、水温を上げる改善策を早急に検討し、来年度に備えるべきだと思います。

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！

『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。翼に偏りがあっては飛べません。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、明るい未来が切り拓かれていくと確信するのです。



地方創生とは「人口減少対策」 子育て支援で街おこしを

加速する人口減少社会

急激な人口減少社会に突入し、さらに東京への一極集中が加速する中、多くの自治体ではその対応策を迫られています。かすみがうら市も例外ではなく、1995年の4万5288人を最高に人口は減り続けており、現在は4万2800人弱、2040年には約3万3000人、2060年には約2万5000人になるという推計が出されています。

子育て支援で地方創生

「子どもは社会の宝」と言いますが、まさに日本が抱えている最大の問題は、その「宝」である子どもの数が少ないことにあります。「人口が減っても、経済的に潤えばよいのでは」との意見も聞かれますが、人がいなければ、やがては廃れてしま

います。

そこで私は今回の議

会の一般質問で、

「かすみがうら市は、子育て支援による地方創生をすべき」と主張

しました。具体的には保育料無料化、学校給

食費の無料化、中学生以下の医療費の完全無

料化など、大胆な施策を打ち出して、多くの

子育て世帯を呼び込むことです。

これらの施策を実現するには、保育料無料

化には約2億5000万円、給食費の無料化

には約1億6000万円、医療費の完全無料

化には約2400万円

程度が必要ですが、全部行っても4億5000万円弱です。

かすみがうら市の一般

会計予算は170億円です。あらゆる事業

をしつかりと精査して、

4～5%の経費節減に努めれば、これらの施策は実行できるのです。

県内子育てしやすい街に

茨城県内で、これだけ

大胆な子育て支援策を行っている自治体は

ありません。1面で書いたように、隣接自治

体との連携を図りつつ、県内で一番子育てしや

すい街を実現すれば、これまで出されてきた

将来の人口予測は大幅に上方修正されるはず

です。子育て支援は将来への投資であり、や

がては全員にその恩恵が返ってくるのです。

フルーツ輸出に

真剣に取り組み

全国有数の果樹生産

を誇るかすみがうら市。しかしその担い

手不足は深刻で、代表的な作物のナシ生

産者は、2005年から2015年の10

年間で42%も減っています。力キ32%減、

クリ17%減と、いずれも危機的状況です。

私は、行政のリーダーシップで当市の

高品質フルーツを輸出する検討を始める

べきだと提言しました。ブランド化を促

し、利益率を高め、新規営農者を呼び込

むのです。攻めの農業こそ生き残りの力

ギに違いありません。

明日への思い

東京都の築地市場の豊

洲への移転問題、また富山市議会の政務調査費不

正問題と、このところ行政や議員による不祥事が

大きくマスコミに取り上げられています。

それぞれの事件には個別の事情があるのでしょ

うが、共通して言えることは「閉鎖的体質」です。

小池都知事の言うブラッ

クボックスは、何も東京都だけの話だけではな

いと多くの国民が感じていることでしょう。

私は、行政手続きや議会での審議は、プライバ

シー保護や交渉上開示できない場合を除いて、原則公開にすべきだと考

えています。肝心なことは、請求されて開示する現在のやり方ではなく、開示を義務付けることです。

正常な民主主義は、そこから始まると思うのです。

TOPICS

市民の皆さんの声、お聞かせください

この度私は、市民の皆さんの声をお聞かせいただくために、専用のハガキを作成し、時間を見てはお配りしています。

市議会議員になって約1年半、様々な機会で行政の現場も立ち会いました。そこで感じるの、市民の声を積極的に取

り入れて実現しようとする姿勢は、とても十分とは言えないということです。

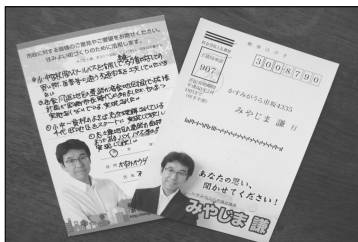
そこで私自身も、できるだけ多くの市民の皆さんとお会いして、その想いを聞かせていただき、市政への提言に活か

したいと考えました。その手段として、このハガキをお配りし、市政へのご意見、ご要望、感じている問題点などを書いて

投函していただいているのです。大きくは行政の合併から、雨水排水の不具合な

どの身近な問題まで、実に沢山のご意見や情報を寄せていただいています。

こうした貴重なご意見をしっかりと受け止めて、議員活動を進めていきます。もしこのハガキを手にする機会があれば、ぜひご協力ください。



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/